

第6回 松戸市2020年東京オリンピックパラリンピック

やさシティおもてなシティ推進会議

1. 日 時 平成29年 3月24日(金) 13時30分～
2. 場 所 議会棟 2階 第3委員会室
3. 出席者 委員11名のうち8名出席
4. 傍聴者 なし（傍聴希望者なし）
5. 会議経過 (1)開会 13:30
(2)長江会長挨拶
傍聴確認（事務局より傍聴者なしとの報告）
資料確認（配布漏れなし）
議事録署名確認（名簿順につき岡本委員に依頼→了承）
(3) 報告1 大学関係部会設置について
(4) 報告2 第5回推進会議以降の取組みについて
(5) 議題1 第2次推進行動計画について
(6) 閉会 15:40

6. 議事概要

○長江会長

それでは、議事に入りたいと思います。

前回の会議から大分時間があきまして、いろいろな点で進んでいる点があるかと思いますので、流れの中で何がどこまで進んでいるかを振り返りも含めて確認させていただけたらと思います。

事務局から報告をよろしくお願いします。

（大学関係部会設置と第5回推進会議以降の取組みについて報告、および第2次推進行動計画について説明。）

○長江会長 ありがとうございます。

報告1にありました大学関係部会につきまして、池邊先生の方から副会長として補足していただけたらありがたいなと思います。よろしくお願いします。

○池邊副会長

皆様のお手元には、先ほど事務局からご紹介のありました推進会議の開催概要ということで議題が3つほど、松戸に関係する教育研究等の実施について、大学連携の推進について、3番目に学生、大学の活躍の場を設定、連携した取り組みについてという3つについて話し合いました。私ども、4大学ありながら、今まで大学祭等を通じた連携等も開催したことがございまして、今回の機会をいただきまして、できれば学生同士の交流や連携をうまく図っていきたいという意向であります。

ただ、先ほどの行動計画の4ページ目のところに松戸フューチャーセンター等での学生や大学が活躍する取り組みというようなことを書いていただいたんですけども、学生を出してくれというような呼びかけをするよりも、やる気のある、コアになりそうな学生をそれぞれの大学から少し出して、学生の活動みたいなものが自発的に少しずつ熟成してきたレベルで、学生もこんなふうに行っているんだから、学内でもっと組織的に協力しようというような持ち上げ方のほうが、学内にも協力を要請しやすいと考えます。要するに、ボランティアの学生を出しなさいとか、協力しなさいというような、あるいは各学年で何名選びますというようなやり方ではなくて、とりあえずコアの学生の活動みたいなものがあって、その上で4大学でどういうふうに行っていくかということを進めれば、そのほうがやり方としては学内にも通りやすいのではないかと考えております。

今、大学等も昔とは違いまして、小中学校ですとそうでもないのかもしれないですけども、何か活動をやれと上から言うことが、パワハラとかアカハラとかという言い方でなかなか難しいものです。あと、ただ単に講演会ということで何百人集めてお話を聞くというだけではなくて、そこで実際にコアになる学生と一緒に活動しようと協力を呼びかけるといったような形のほうがやりやすいのではないかと意見が出まして、松戸市での新しいフューチャーセンターをコアにできないとか、あるいはお金のあまりかからない範囲で学生たちが発意でマスコットとか何かキャラクターみたいなものを発案するとか、学生たちが自分たちでおもてなシティに向けてやれることを手始めにやってみたらどうかというような話がありました。

うまく頑張れば、ことしの大学祭ぐらいから何かしら連携ができればよいと思っております。

以上でございます。

○長江会長

ありがとうございます。

池邊先生のほうからありましたように、4大学が松戸にあるというのは含み資産、活性化の1つの起爆剤にはなるとは思います、横串をまず入れるということの最初の一步と、学生が参加型、企画立案型というか、学生自身がおもしろいと思って参加してもらう。そこでいろいろなものが形になってきたときに実現をして、達成感を学生自身が感じ、学生が社会参加することがキャリアアップになるというような仕組みづくりをしていったほうがいいという意見だと思んですけども、委員の皆様のほうから何かご質問やご意見とかありますか。

飯沼委員、よろしくお願いします。

○飯沼委員

大学のほうで連携ができ始めたというのはうれしいなと思います。ちょうど大学生か高校生ぐらいがどんどん活動する時代になっていますので、そういう意味では、この内容がどんどん充実していったらいいなと思います。その中で、各大学でどの程度、オリンピックに対して、例えばオリンピッククラブとか、あるいはオリンピックに関係あるような学生の団体みたいなものの推進とか、組織のつくり上げとか、そういうのは現状どうなっているか、それが1つ質問です。

あと、幼稚園から高等学校までの子どもたちが将来、オリンピックに対して、かなりいろんな影響を受けるとは思いますので、私は、どちらかという教育関係、文化の関係で見る形で、どういう進め方をしたらいいかというのを具体的に年ごとに実行していかなきゃいけないのかなというふうに思います。

スポーツ関係はそれぞれの専門の方がいらっしゃると思いますが、とりあえず大学生がどこまで各大学でオリンピックに対する意識を持てるか、そういう組織をどうしていったらいいのかということと、全般的にそれぞれ専門分野がある大学で実力を発揮しやすいような形での進め方が大事かなと思います。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

実際に大学連携という以前に、それぞれの大学でどのような取り組みをされているかというご質問なんですが、池邊先生の千葉大はいかがでしょう。

○池邊副会長

私どもの学部は園芸学部ということで、本来、西千葉キャンパスのほうですと1年生がいるんですけども、どちらかというと、3年生以上という形で、私のいる造園というところは比較的計画系なのでそうでもないんですけども、実験系のところは運動系というよりは、どちらかというと、白衣を着てやって

いるというような形で、あまり興味があるとは言えません。ただ、私どもの研究室では、昨年、松戸市さんの市民活動助成で公共サインという命題で1年間10万円ほどいただきました。ここの中にもありましたけれども、隣に戸定邸がありまして、そこに向けていろんな案内、駅からの案内のサインですとか、そういうものがインターナショナルに何カ国語かで出てくるというのもしかりですけれども、まずは一般市民に向けても非常にわかりにくいのではないかと思います。ということで、市内のさまざまな観光名所と言われているような施設とか、海外の方がいらっしゃって松戸を見ていただけるような場所、そこに実際学生が行ってみて、英語表記もないし、中国語や韓国語表記もないというサインのわかりにくい状態等を見させていただきました。そこで、昨年、ジケイさんという国際的にデザインの活動をしている事務所の方に来ていただきまして、今のインターナショナルなサインの動向というような形で講演していただきまして、どういうサインを考えたらいいかというようなことを進めさせていただきました。ことしも同じような形で私の研究室の中でドクターの学生から4年生まで参加した形で研究会を運営させていただいております。

以上でございます。

○長江会長

ありがとうございます。

橋口先生の大学のほうでは何かございますでしょうか。

○橋口委員

私は日本大学なんですが、日本大学本体のほうは東京に本部がありますので、さまざまな動き、あと、運動部はいろんなクラスがあるんですが、今回のプロジェクトの松戸歯学部の中では、運動に関してはほぼイメージはないというのが率直なご意見です。ただ、医師系の学部なので、ボランティアですとか何か人のためにというような意識のある学生は多々あるんですね。大学の関係部会のほうでもちょっとお話しさせていただいたんですが、実は何をしたいのかわからないという学生が多いんですね。もっと言うと、東京オリンピック・パラリンピックをやるのに何で松戸で何かをやるんですかというような、本当に素朴な疑問があります。何で松戸なのか。なので、そういった意味での醸成も含めて学生たちは知らないような状況です。

あと、今、池邊委員からありましたが、ボランティアに行けと言ったところで、恐らく今の学生って行くんですよね。行きます。ここで30人集めろと言ったら集めてやれるんですが、もしそれがこの後、松戸のスポーツ振興ですとか、何か地域のというときに、根づくかどうかということ、すごく疑問なところがあります。今までなかったわけですから。なので、そういう意味で、育てる時間はかかるのかなというのがうちの学部の印象です。

○長江会長

それでは、聖徳なんですが、オリンピック・パラリンピックに関しましては、学内に旗を立てたり、2年ぐらい前から推進していくという連携をさせていただいております。

それから、学内にオリンピック関連の先生方が実際にいらっしゃいます。一人の先生はボブスレーの監督をされていて、冬季オリンピック、それから、もう一人の先生は、1964年のオリンピックに立ち会ったという先生がいらっしゃってたりして、幼児教育系がうちの大学にありますので、保育士さんとか幼稚園の先生だけでなく、小学校の教員養成をしております、児童学部のほうにお二人とも所属していますので、教育現場でそういうことに関して意識の高い教員養成というのを考えております。

もちろん、障害を持っていられっしゃる方々に関しては、学部の中に独立支援の資格をとる教師養成をしておりますので、例えば障害者のスポーツ何とか教室とか、そういうものに関しての意識は非常に高いです。ただ、目に見えてオリンピックだけに特化したボランティア云々というのはまだ育成しておりません。ここ5年間ぐらい、例えばボランティア登録をして30時間以上やった場合に認定証を交付しているとか、あるいは1年を通して目覚ましいボランティアとか、いろんな活躍をした学生を学長表彰したり、そういうような制度で、できる限り学生時代に勉強だけではなく、人との交流を深めて、社会とかかわることによってキャリアアップしていくという姿勢を身につけないと、社会に出たときに生きる力がないんじゃないかということしております。

そういう意味では、学内にラーニングデザインセンターというのがありまして、学種もそうですし語学に関するセンターがありますので、特にこれからは小学校から英語を教えなきゃいけないということで、その教員養成をしなければいけないので、英語教育や何かに関してより身近な形でやっていこうと考えております。

それから、生涯学習は、聖徳オープンアカデミーの中に7カ国語の有料の講座を開いております。スペイン語とかそういうのもあるんですけど、受講されている松戸を中心とする東京の東側、埼玉、茨城、千葉の近隣の市町村の方々の中で、一番すばらしいなと思うのは、松戸市内の新松戸を中心としたところでは、リタイア後の方々が商社や何かに勤務された方、含み資産的な語学を生涯にわたって高めていこうという形で学んでいらっしゃる方々がいるんですね。だから、例えば語学ボランティアであるとか、あるいは保育士のコースだったら、子どものお世話をするボランティアであるとか、あと、看護師養成の学部もありますので、日大松戸歯学部さんと連携して、それこそオリンピック期間中に個人的なスポーツアスリートの方々だけでなく、観客の中にも、相当

夏、暑くなりますので、熱中症そのほかで、そういうようなところにも何かお役に立つような人材育成というのをしていけば、それなりの形で出てくるのではないかというふうに思います。

まだ実際には、学校にオリンピックの旗を立てて、できる限り意識を高めていくという程度でございますけれども、生涯学習と芸術の学生、通学課程の学生にアピールがなされているかという、まだまだ浸透はしておりませんが、でき得る限りそういうことの連携をしていきたいと考えております。

現状としては、各大学ごとにこれからということだと思うので、学生にトップダウンでやれというのではなくて、下から上がってくるみたいな企画参加型、そういうような形で4大学が連携しながら、コアの人材、例えば一大学2名ずつで8名ぐらいで考えたものが1つの起爆剤になるかもしれませんしということで、池邊先生を部会長にした大学関係部会がスタートしたばかりですけども、やってよかったのではないかというふうに、私はほかの大学のことがよくわからないということ自体がすごく寂しいことなので、同じ市内にある学生同士が知り合うことが第一歩かと思えます。

○飯沼委員

今なぜこれを伺ったかという、せっかく大学で盛り上がって始まっているものをどういうふうに市民に知らせるかということが大事だと思うんですね。

たまたまこの計画の4ページの(2)歴史とおもてなしのところに国際文化祭というのが書いてあって、これは国際交流協会主催で毎年10月に市民会館を借り切って、舞台上でいろんな催し物をしたり、各国の世界料理の料理教室をはじめとして皆さんに料理を召し上がってもらったり、それから、各国の文化とか歴史とかを紹介するコーナーもありまして、国際文化大使を中心にいろいろな国の紹介があるんですね。せっかく大舞台というか、1,200人入るホールがあるんですけども、舞台上でいろいろ催し物もあるんですが、もし大学生でオリンピック関係でもいいですし国際関係のお仕事とか行事とかに興味のある方がいらしたら、国際文化祭に出ていただいたらどうかなというふうに思いますので、今、企画して、毎年10月にやることは決まっていますので、もし各大学に出したら、オリンピックも含めてそれぞれの得意分野がそれぞれの大学にあると思いますから、それを発表してみるとかというのがもしできたらいいなと思ってご提案です。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

それでは、報告1の大学関連部会につきましては、今、ご説明とか飯沼委員からのご提案という形で広がりがありました。議題1のきょうの第2次の推進

行動計画について煮詰めていかなければならないわけですが、皆さんのほうで一番わかりやすいのは、この表になっているものと4つの柱になりますので、それぞれ4つの柱の1つずつでもし抜けているよとか、ここをもっと強化していただけたらということがあると思いますので、4つの柱の第1番目の市民意識啓発、オリンピック・パラリンピック教育等を進め、未来を支える人材を育成するということで、実際には平成29年度はスタートの段階で、市立小学校全校で夢の教室開催とか、これは事務局さんのほうで相当今回オリンピック・パラリンピックの予算自体が最初のスタートは300万円ぐらいだったものが10倍ぐらいに大きくなっているということがあると思うんですが。

○事務局

これは27年度の予算の概要になりまして、この会議でもご案内したところでございますけれども、教育事業を中心に、啓発事業、選手育成事業、スケジュール管理の関係等で総額1,300万円、それから、28年度は資料は作成しておりませんけれども、1,200万円ほどに拡大しました。そして、29年度につきましては、ちょっと項目が異なってくるんですけれども、事前キャンプの交渉の関係などが想定されますし、実際そこまで使う必要がないケースもあるかもしれませんけども、視察したいということでお金がないから対応できませんというわけにはまいりませんので、それが3,200万円程度のうちのほぼ半分を事前キャンプ交渉関連で占めておりますけれども、それ以外にも教育啓発事業ということで1,200万円、この中で先ほどの125クラス程度になるかと思うんですが、5年生のクラス全部でできる対応は今、進めております。

それから、文化プログラム、選手応援、ちょっと大事な話をしますと、実際に政策推進課のほうで確保している予算以外に200万円、選手応援事業ということで、スポーツ基金のほうで取り組んでいただくということになっております。

一応、予算概要でいいますと、こういう形で3年前の10倍ぐらいです。

○長江会長

28年度の予算でも倍以上獲得していただいたということで、金額的にはいろいろな形に使える予算のほうは議会を通ったそうですから、もうちょっとたくさんいただきたいということで一生懸命頑張っていただいたんですけれども、結果として3,260万円ということなんですが、1番目のところの柱は、未来を支える人材を育成ということが基本なので、皆様方の中から教育あるいはボランティア育成のほうでご意見等がありましたら、よろしくお願いします。

岡本委員、いかがでしょうか。何かご意見等ございますか。スポーツ教育のほうで。

○岡本委員

今、ちょっと話を聞いていて、それを適用してやっていただくのだったら、とてもいいなと思ったのが、体育協会として初めての試みだけでも、毎年6月に前年度の優秀選手、優秀団体チームを表彰するんですけど、被表彰者と体育協会の各会長さんあたりが、人数的には100名前後、そういう程度だけでも、そのときよければ、指導者が対象ですけども、とにかく何が何でもむちゃくちゃに練習をやれ、回を重ねればいいんだという感じの指導をする指導者も中にはいますよね。今、特にラグビーの世界選手権で優勝したメンタル指導士と言われる人たちの話を聞いたことがあるけど、ああいう指導をしてくれる講演をやりたいなという話が出ているものですから、もしもどなたか適当な人がいらっしゃるのであれば、教育啓発事業、文化プログラム関係等から予算をいただければと。本来ならば体育協会ですら予算を出してというところがないといけないかもしれませんが、金があるわけじゃないものですから、本当にいい指導をしていただく人ということであれば、結構講演料というのも必要ですし、今、ちょっと思いついたんですけども、後で終わったら、大学の先生方に、尾崎さんあたり、どなたかいらっしゃらないかなという感じを聞いているのかなと思ったものですから、ちょっとそういうことで。

あと一つは、3番目の七草マラソン大会でルーマニアの交流の本格化をするということで、ことし、大使もみえて、選手も来ていただいたということで盛り上がったところですけども、ほかにこれ以上にどういう方向に進めていくのかなという感じで、人数的に少し多く招待してやるというふうに思っているのか、その辺は。

○長江会長

今、岡本委員のほうから2つほどご質問があったと思うんですけど、スポーツ、人材育成という意味で、例えば有効な講演会、指導者の方、そこには、当然、オリンピック・パラリンピックに対する啓発というものを中に入れていただいて、そういうような形の育成支援というのが予算の中で使えるものであるのかどうかということと、それから、ルーマニアの交流はどのような形で今後考えていらっしゃるのか。どうなんでしょう、そこら辺は。

○事務局

実際には今後、スポーツ部会という関係もあると思います。

○長江会長

むしろこちらは意見をどんどん言っちゃっていいという。

○事務局

はい。そういうことをこの取りまとめの中で具体化、行動計画にも反映していきたいと思いますので、それは積極的にご提案いただけると全く問題ないかと、進められる方向だと思います。

○長江会長

じゃ、石井さん。

○事務局

じゃ、あと、私のほうからも、一応、ルーマニアのほうとは、今回もルーマニアの組織委員会の事前キャンプの視察ということで、7月下旬に松戸市のほうに視察に来るという話になりました。また、きのう、市長宛にルーマニア大使館から手紙が来まして、4月4日にルーマニアの市町村の視察団が日本に訪れると、そのときにぜひ松戸市長も来てくださいという手紙が来まして、松戸と交流という形で市長が直接大使館に行って、レセプションに参加してこれからやっていくという形になっております。

あと、先ほどの七草マラソンのほかにも、ルーマニアとは、ホストタウンになっている関係で、例えばルーマニア料理を松戸まつりであるとかそういうところで食べてもらうとか、あと、ワインはあそこでは有名なものですから、ワインを飲んでもらうとか、そういうような形で交流を深めていきたいというふうに考えております。

○長江会長

それは一般の市民の方にわかりやすくということで見える化する。

○事務局

そういうことです。後でまたご説明しようと思っておりますけども。

○長江会長

ありがとうございます。

岡本委員、いかがでしょうか。どんどん提案してくださいということだから。

○岡本委員

はい。

○長江会長

よろしくお願いします。

杉浦委員、いかがでしょうか。観光とかいろいろ出ていますので。

○杉浦委員

私は、行動計画の中で（２）の部分になろうかと思うんですが、松戸文化の発信、地域ブランドの向上、松戸の文化、観光等、多言語表記とか、やらなきゃならないテーマはたくさんありますが、観光協会としても、まず、大学の生徒に松戸の観光の案内もしていないし、そういう説明にも出かけていないし、少しその辺からこれを契機に、松戸の文化、観光を大学の中でどこかにそういう場所があれば、パワーポイントを使ってやってみたいなというふうに、これを契機にして、少しずつそういうところに意識をしていただいて、活動を見出せればと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。

松戸のまちづくりも協議会というか、そちらのほうで戸定邸の整備とか、あと、親水公園の整備とか、そういう形で、市内で身近に歩いて回れるような距離感のところも整備していく方向性にありますよね。そういうものと一体化して、できるだけ若い世代に松戸の観光協会も。

○杉浦委員

そうですね。地域ブランドの向上というのは必要ですから、ぜひ千葉大さんともコラボレーションして、戸定邸というのは、戸定が丘という一つの売り出しにもなろうかと思しますので、その辺もこれを契機に、(2)の部分を大切にしていきたいと思っております。

○長江会長

ありがとうございます。

尾崎委員、いかがでしょうか。何かご意見等がありましたら。

○尾崎委員

全体で。

○長江会長

全体でいいです。もう自由に。

○尾崎委員

山形県村山市というところに行ってみまして、要は、4年間事前キャンプを受け入れると。新体操女子。今、お話がありましたように、レセプションパーティーでブルガリアの料理、日本の料理、それぞれの役員の方々が食事をしたり、それから、来られた集団もいたんですけど、学校のほうへ訪問して、そういうような方法でやっていましたので、事前キャンプというところにテーマを絞れば、行政さんのほうで少し動きが出てきたなど。直前のキャンプというところまでは、予算あるいは競技の人数、環境整備によっては、複数受け入れて、それを市民に享受していこうと、こんなような動きが出てきていると思いますので、松戸市さんとしての立ち位置というところは、直前ということに誰が育てていくのか、ここの計画からしますと、諸条件がそろえば、複数年で受け入れをしたいというのも、市民の人たちに関心を持ってもらう大きな要素じゃないのかなと、そんなふうに感じました。

それから、先ほどのお話にありましたように、文化云々ということになると、スポーツに関連しての肉体的なトレーニングみたいに、やる気とかモチベーションとか、そういうことに対して、多くのインストラクターの人たちがいらっしゃるということは、そのとおりだと思いますので、いろんな場で運動の競技をするときにメンタル的な要素のお話がセットに出てくるとかいうようなやり

方もあるのではないかなというふうに思っています。

私の友人がたまたま同じ会社の出身で独立して、「集中力」という本まで書いて、いろんなところで講演しています。そのお話を聞くと、講演のときには、座学だけじゃなくて、運動のプログラムとセットでやるケースもあるようですので、そういう意味からすると、先ほどの話にありましたけど、いろいろな運動を体験したいということにプラス、心の持ち方とか、そういうものをするにもいいタイミングじゃないかなと思います。

○長江会長

ストレスを抱えていて、ストレスをフリーにするためにも体を動かすという、健康増進にもなるという。

○尾崎委員

ちょっと手前みそな話なんですけど、国際バレーボール連盟との契約をセノー株式会社が承認しましたので、2020年までの国際大会あるいはオリンピックも含めて、我々の器具が採用されると。バレーボールも屋内、屋外、それから、シッティングバレーという、そういうところのかかわりも従来以上にパイプが持てましたので、障害者の体験といったときに、事業のところにも種目を、じゃあ、やってみようかとか、あるいは先ほどのキャンプ地を招致するときに贈るとか、バレーボール関連で何かあればお手伝いできればなと思います。

以上です。

○長江会長

ありがとうございます。

尾崎委員、具体的な事例とご提案、ありがとうございます。

薄葉委員から商工会議所のほうではいかがでしょうか。

○薄葉委員

2次推進計画を見ながら、どうもひっかかるかなと思いながら見ていて、なかなか経済そのものも、今、セノーさんみたいにもちろん経済力も肝心なんですけど、1社が力になって、みずからの仕事を設けるというのは全然別の話なんですけど、我々は小規模事業所の集団の中でどういう意識をとということになると、なかなかないんですね。地域ブランド向上のため、地域ブランドと思いながら、ちょっとまだ違うんだなと。尾崎さんがおっしゃったように、事前キャンプ場なんですけど、予算の中に事前キャンプ交渉関連ということで、事前キャンプをどこでやるか全然まだ検討にないと。仮にここで事前キャンプ場にするぞという場所を特定すれば、その周辺の商店街だとか、お店だとか、いろんな働きかけをできるんですけど、松戸市全体で62平方キロメートルのところに全体がうわっといくと、聞くほうは頭に入らないですよ。頭に入らないというか、ああ、そういうことかと、自分には関係ないなという意味で頭に入るというこ

とです。

だから、今のところ、格好いい皆さんの話を聞いている嫌なんだけど、こう言わざるを得ないみたいなところで、尾崎さんのところにすがっちゃおうかなと思う。我々の会員さんもいらっしゃるし、いろいろあったので。そんなふうな、いや、つまりませんが、そういう思いになっちゃうということですね。

○尾崎委員

この間、村山市のレセプションパーティなんですけど、6月に2週間ほど滞在してもらおうと、それを4回やると。そのときに、費用はともかくとして、地元の会社さんにローズキャンプと名づけて、少し協賛金を出してもらって、それを享受してもらおうと、そういうオプションが、恐らく何か具体的なイベントみたいなものがはまってくれば、そこに少し協賛してもらって、かかわりを深く持ってもらおうというのはあるかもしれないですね。

○薄葉委員

そうすると、周知の仕方とか、こういうことをしたほうがいいですよとか、そういうお話がちょっとできるかなと思います。

あとは、ものすごく抽象的ですけども、東京に近いところでいち早くということなので、これをきっかけに松戸のまちの変容を図るんだと。千葉県に成田空港がありますけど、ちょっと遠いかなと。そういうようなことがあるけど、とにかくまちを国際化してしまうんだと、そういうことであって、そのために地元であると、教材を買う、売るとなれば経済的になっていますけど、それが具体的には見えない、私なんかは話を聞いているだけでは。だから、こういう行動をしたらいいですよという呼びかけができないというのは今の状況ですね。

すみません、ちょっとマイナスなことを言っているわけじゃないので、客観的なことを言っているつもりで。

○長江会長

ありがとうございます。

例えて言えば、自転車競技ということであれば、北松戸の競輪場がありますけど、そういう施設の改修であったり、あるいは北松戸の競輪場方面が道路とかいろいろなものを改修しているとか、いろんな形の計画を市で持っていらっしゃるようなんですが、今、薄葉委員のほうからもありましたような、地域がある程度、連携してというところで資料が配られているみたいなので、文化プログラムの中で小金地区を中心として考えていらっしゃること、実際に実現していることについてお聞かせ願えますでしょうか。

○事務局 お手元のほうに、まず、A4の横のものなんですけども、今、文化プログラムのロゴマークが3つ使える形になります。文化プログラムの Beyond

2020 というもの、これは内閣官房のほうで認可するプログラムなんですね。それと、大会組織委員会で使える東京 2020 の公認プログラムと東京 2020 応援プログラムという形で、今回、市町村のほうで使えるのは、今、マーカーしていただきますけども、Beyond2020 は今現在、申請すれば使えます。これについては、いろんなパンフレットをつくったりするときに、日本語表記のほかに多言語表記をすれば大丈夫ですと、それから、あと、身体障害者の方のバリアフリーの施設をつくれれば使えますと、そういう形になっています。応援プログラムのほうも、7月以降になると、このプログラムをどこも使える形になると今、聞いています。

今回、松戸市のほうでは、2020 に向けてどういう形で取り組んだらいいかというようなところで、こちらに市全体の地図が入っていると思うんですけども、今、いろんな委員さんのほうからも意見があったとおり、松戸市のいろんな技能をここに文化プログラムとして生かしていったらどうかというところで、例えば松戸の地域を見てもらいますと、松戸市のほうでは3カ国との事前キャンプの覚書を締結しているものですから、例えば松戸まつりのところでオランダとドミニカ共和国、ルーマニアのブースをつくりまして、そこで料理を食べてもらったり、例えばルーマニアであれば、ワインが有名ですから、ワインを飲んでもらうとか、そういうようなことも考えられるかと。それから、またはコンテンツ産業が松戸は有名ですから、松戸市域のほうではこういった産業を海外の人に知らせていくと。それから、また、パラダイス・エアも有名ですので、パラダイス・エアも広めていくと。それから、あと、観光客の方とともに外国人の方に来てもらって、今回4月から市民自治課のほうで地域活躍塾という塾をオープンしまして、そこは定年退職した方でなおかつ多言語をしゃべれる方に講習を受けてもらって、そういう方をそういうところにいてもらって、ボランティアで通訳してもらい、そういうことも考えられるかなと。

それから、また、矢切地区のほうであると、ビールまつりがあるんですね。今回、オランダが事前キャンプをやっているものですから、オランダのハイネケンと千葉県のビール、いろんなビールがあると思うんですけど、比較対象してもらいとか。それから、あとは、松飛台地区のほうであると、松戸には相撲部屋がありますから、佐渡ヶ嶽部屋のほうで国技の相撲を体験してもらったり、見てもらいというようにすることもできるかなと。それから、また、八柱だとか千駄堀地域のほうであると、21世紀の森と広場のほうでモリヒロフェスタでラーメンとかそういうものがあるものですから、そこを有名にしていくと。それから、コスプレが結構有名ですから、コスプレも外国人の方に見てもらいとか。それから、いろんな地域で桜まつりをやっていると思いますが、桜まつりのところで外国人向けのブースをつくって、日本ではこういう形の桜見物をするん

だということを見てもらおうと。あとは、常盤台地域のほうであると、国際舞踊大会という形で日本の民謡だとか三味線だとか、そういうのを見てもらって、あとはオランダだとか事前キャンプする国の人に国際舞踊を見てもらうこととか、そういう形のもので文化プログラムを推進していきたい。それに当たって、今回、小金地区のほうで人材を育成するということで、冊子があるんですけども、この冊子は、これを見れば小金のまちが全部わかるような形でつくってあります。これを今、小金中学校の英語部が試験校としてやりまして、きのう、やってきたんですけど、英語部の生徒にうちのほうの予算で講師を雇いまして、きのう、実際にこういう形でやってきました。英語と日本語で書いてありまして、例えば、こちらのほうを開きますと、小金ロマンルートと地図が書いてあります。これは北小金駅からルートを回っていきますと、大体2時間くらいで小金の町を全部回れるような形のルートになっています。真ん中のところが、例えばここは行くとトイレがありますと、ここに行くと朱印所がありますと、そういう形で1周すると小金の町が全部わかる。例えば、こっちの右側のほうであると、1月から6月までのイベントがわかるようになっている。これをお土産に、ぐるぐるとしたやつで、朱印帳もつくりまして、朱印してもらったものを外国人の方にお土産として持って帰ってもらう。この冊子については、子どもたちがこういう形で講習を受けながら、英語の部分と日本語の部分の先生が発音の仕方とか全部してくれまして、そういう形のものをスタートさせています。これにはおいしい食べ物屋さんとか、野菜はどんなものがあるか、歴史はどういうことがあるという形で、講習を全部受けて、講師の中には英語を教える先生、歴史を教える先生、農業を教える先生という形で7回ぐらいの講習を受けていただいて、Beyond2020の認定証を子どもたちに渡して、今、中学2年生を対象にやっているものですから、オリンピックはあと3年ちょつとなので、中学校を卒業した後も後輩にいろいろな方で教えながら、レガシーとしてこれから残すような形でやっていこうと考えています。

それから、プリントがございまして、松戸地区は松道という形になっていまして、これは文字っているんですけども、コンセプトとしては、スローガンで松戸の戸と道ということで、松戸に来れば、日本のコンセプトである書道だとか華道だとか茶道だとか、道がつくものを全て松戸で経験することができますよという形で地図をつくりまして、これを観光協会か何かに置いてもらって、これはあくまでも案なんですけども、葛西屋さんに行き着物を着付けをしてももらった上で茶道をやるとか、華道をやるとか、そういう経験ができるような形。それについては、時間が書いてあって、何時から何時まではボランティアのガイドの方がいてくれて、多言語で案内してもらって、1回無料のところがありますし、有料で実際に着物を着付けしてもらった場合には1回1,000円もら

うとか、そういう形のもので対応できるのではないかというところで、こういう形で文化プログラムを市全域に向けて発信したらどうかと、これはあくまでも案なんですけども、考えています。それに当たって、今後は、今、事前キャンプの国が3カ国になっているものですから、オリンピックのバッジがあるんですけども、3カ国のバッジを注文してありまして、来週でき上がります。これは磁石が強いもので、穴をあけなくても磁石でとめられるようなバッジをつくってあります。例えばドミニカの方が来た場合には、歓迎ということでこのバッジをつけてもらって案内するだとか、それから、小金のまちの子どもたちにこのバッジをつけてもらって、小金のまちを案内してもらうとか、そういうことができるのかなと。そういうような形で今、考えています。

○長江会長

ありがとうございます。

ちょっと質問なんですけど、小金のロマンルートガイドマニュアルというのは、ことしもう実現してやったということですか。

○事務局

これは、去年、小金中学校のほうで今年度やりたいと教育長のほうに推奨依頼をかけましたら、この事業はいいことなので、教育委員会としても推奨するという形になっていまして、今回、オリンピックのほうで人材育成という形になっているものですから、まず何から始めたらいいかということで、この事業が推奨事業になっているものですから、これをもとにして人材育成という形で、きのうからモデル校で始めまして、4月以降、ちゃんとしたスケジュールを組んだ上でやろうと。きのう、実際に英語で本土寺が案内できるような形にしまして、お釈迦様の花祭りが4月8日ということで、4月9日が日曜日なものですから、そのときに小金中学校の14人の生徒が本土寺に来てもらって、小金の町会の人を仮想訪問者さんという形で見立てまして、これをもとにして案内して、一回デモをやった上で、今後は全部講習を受けてもらった上で本格的にスタートしていこうというふうに今、考えています。

○長江会長

質問なんですけど、小金は1つの拠点として継続的にやるということですか。

○事務局

そうです。小金のほうでうまくいけば、例えば松戸から戸定邸、野菊の墓、矢切の渡しというルートも今後は可能なかなと思っていますけども。

○長江会長

中学生に関して、一種の文化プログラムの仕掛けに関しては、予算は幾らぐらいで現状として動いているんでしょうか。

○事務局

今回、英語の講師の方が実際には1講座で1万円ぐらいでやってくれるということです。そのほかの歴史とか農業の講師の方は全部ボランティアでやってくれるという形で、有料の講師の方につきましては、中学生ですから、月1回か2回ぐらいかなと思っています。そうすると、月2回やったとしても、年間で24回、二十四、五万円という形でできるのかなと。その予算であれば、例えば文化プログラム予算が今回200万円ついていますので、その中で動けるのかなと思います。

○長江会長

ほかの中学でやりたいとか、あるいは私立高校でやりたいとかいうときに、次年度手を挙げることは可能なんですよ。

○事務局

そのときにはまた予算要求で、今回は夢の教室みたいな形で出ていけば。

○長江会長

最初の一步ということですね。

○事務局

そういうことです。

○長江会長

どうですかね。薄葉委員さんのほうから、先ほど拠点がわからないと、商業地域の活性化と結びつけたり、あるいは事前キャンプ、先ほど尾崎委員の言われたような、継続的にやっていくという1つの突破口の戦略になるかと思うんですが。

○事務局

先ほど薄葉委員のほうからありましたけど、松戸では結構有名なものがいっぱいありまして、例えば、松戸に来てもらえれば、おもて梨と矢切のネギでネギらい。あと、戸定邸と矢切の渡しで伝統文化のおもてなし。はさみも結構優秀なものがあるものですから、巧のおもてなし。お酒も戸定邸のものがあつたり、いろんなお酒があつたり、茄子のよいち漬。それから、ラーメンも結構有名ですから、こういうようなところで松戸のいいところをアピールできればと考えています。

○長江会長

いかがでしょうか。商工会議所の視点から。

○薄葉委員

文化プログラムという外国の人にわかるという言い方をしているけど、市民にわかったらすごい……。

○長江会長

そういうことですね。

○薄葉委員

部分的な言い方をしたら、そっちのほうが価値があるかもしれない。

○長江会長

そうですね。茄子のよいち漬を知らない市民もいますね。

○事務局

これを日本語と外国語にして渡せば、松戸はこんないいところだという形でアピールできるのかなと。

○薄葉委員

誰がつくったの。つくる人はいない……。

○飯沼委員

グループができていて、小金小学校と東禅寺と一緒にあって、小金のまちを案内するというのは随分前からでき上がっているんですね。あそこは千葉県から表彰をいただいたりして、まちを案内するとか、そういうプログラムで優秀だという、多分これはほぼでき上がっているものを提示してくれている。

○事務局

いや、全部新しくしました。一から全部手づくりしました。松戸市国際交流員のスコットさんや博物館の中山学芸員に来てもらって、全部手づくりで。

○飯沼委員

小金の地区の人はかかわっていない。

○事務局

かかわっています。今回はモデル地域に小金地区がなったんですね。その一環として。私が去年、市民部にいたものですから、じゃ、つくりましょうということになって。

○飯沼委員

今回、アイデアとして松戸市の地域はそれぞれあって、地域ごとにやるというのはいいことだと思うんですけどね。ただ、できるだけ地域の人にも協力してもらって、オリンピックの準備になれて、自分の地元を知るということで、日本語と英語で地域ごとに、そんな組織が出てくると……。

○事務局

松戸の地域で落とし込むと、結構いろんなことがわかってくるんですよね。

○長江会長

そうですね。合併で大きくなったまちですから、5ブロックぐらいに割って、例えば馬橋だと旧馬橋村ですし、中央の二十一世紀の森と広場のところは旧高木村というような単位なので、小金町みたいな。そこら辺が逆に歴史を持っていますから、含み資産を生かしていくということですね。

○事務局

そうですね。あと、松戸市区のほうであると、高砂通りというところで、あそこは安藤豆腐店さんとかいろんなものがあって、豆腐というのはヘルシーでいいんだということをアピールできますし、まんじゅう屋さんもありますし、焼酎を売るところもありますし、そういうところの……。

○長江会長

手焼きせんべい。居酒屋があって。昭和の喫茶店が残っているヒヨシとかありますね。昭和商店街という形でアピールすると、逆に新しくないところがレトロでいいという。この間もNHKの「小さな旅」で松戸が取り上げられましたよね。

○池邊副会長

ちょっと質問でいいですか。

○長江会長

はい。

○池邊副会長

松道はとてもいいと思うんですけども、私の研究室も留学生が多いものですから、神奈川のほうに行ってこういうのを体験するみたいなものを大学のゼミなんかでやると、留学生はとても喜ぶんですけども、こういうのを早目に始めて、その後も、レガシーじゃないですけども、やっていけるような。特に浅草とか銀座もやっていますけど、そういうところはお店があるからいいんですけど、松戸の場合はそういうものはないけれども、こういうものが体験できるというのは、とても売り物になりますし、着付けをして外国人の方が歩くというのは、私も京都とかにも連れていったりしていますけども、すごくいい、市民の形も宣伝に、そういう格好で外国人の方が歩いていただくというだけでも、あと、別に日本人でもいいわけですし、そういうのは事前からできるような感じにはなるんでしょうかというのと、あと、これだけではなくて、レガシーというのを、東京オリンピックでも東京都内でも言っていると思うんですけども、2020年とか2021年でばすっと終わっちゃうと、学生がやるにしても、市民の方がやるにしても、モチベーションが、商工会議所とか商業の方もなかなかあれなので、少し長期的なものとして何かできるものがあるといいなという感じがしています。

あと、もう一つだけ、これも以前に市長の声がけで松戸の文化がないということで、文化振興の委員会に参加させていただいたときがあって、松戸の東口と西口が市民の方から見てもきれいじゃないという。おもてなしの心がないというか、そういう部分があるので、もしこういうものをやるのであれば、松戸にふさわしい駅前とはどういうものなのかみたいところで、駅前の看板だとかそういうものを、歴史的な町並みとかにすると、コンビニとかが茶色かった

りするのはご存じだと思うんですけども、そういうようなものも一緒にやっていただくと、まちづくりというような形につながるのではないかなと思います。

○長江会長

ありがとうございます。

杉浦委員、今、地域でいろんな含み資産があって、松戸の観光も含めた形で、せっかくだから、オリンピック・パラリンピックを1つの起爆剤として、商品開発とかそういうのは観光協会さんとしては考えていらっしゃるんでしょうか。

○杉浦委員

そうですね。だんだんこういうことが自然に行政のほうから出てくることはうれしいですね。こういうものというのは、民間はやるでしょうけど、なかなか行政側からここまで面白みを発掘するというか、こういう目線から松戸を見つめるというのは必要なことです。これは商品開発もうまくなりますし、じゃ、これをつくろうかということになるので、商業振興の活性化にもなるのかと思うんですけども、こういう発想は必要ですね。観光もそうですけど、やっぱり楽しいまちづくり、そういうまちをつくるためにも、こういうことは必要ですね。

○長江会長

ありがとうございます。

薄葉委員、何かございますか。松戸にはたくさんの含み資産というものがあるという。

○薄葉委員

事務局はまた努力していただくんですけども、これを見て、びっくりした。外国人が何人来るというのは、頭から私は合わなくて、松戸 48 万市民が、これをもらって、オリンピックがあるんだなと思いながらこれを見たら、楽しく見られますよね。こんなことがあるんだと、そっちのほうのタイトルはずっと大きく書いてあって、びっくりしちゃった。ただ、誰がやったのかなと。そこが本当にできるのかなというようなこと。これは出ていきますけど、お寺さんってほかにもこの地区にあるでしょう。大きさは別にして。有名かどうかは別だから、こういうのをつくるというのは、簡単なようで簡単でないですよ。漏れたところはえっと思うかもわからないしね。これはそういうことなんでしょうけど、漏れているから悪いとかというのではなくて、簡単じゃないよということなんですけれども。

でも、これだけのことができれば、松戸のまちの性格とか、市民の認識が変われば、まちは変わっていきますので、すごいなと思いました。

○長江会長

ありがとうございます。

今は文化的な面というか、観光の部分に集中してご意見をいただいて、できる限り、明るく、楽しく、まちを楽しんでいただくという。市民自体も楽しみながら、オリンピックで松戸のまちを再発見すると。再発見ツアーみたいな形で、できる限り留学生にも楽しんでもらう仕掛けをしていくというか、仕組みづくりを頑張っているということなんですけど、プラスアルファ、国際化であったり、スポーツ振興、そういうような面で、岡本委員のほうから先ほど、せっかく市内にある優秀なスポーツ団体を表彰するようなところで、できる限り新しいタイプのスポーツ科学的な、メンタルも含めて講演会、また、そこでオリンピック・パラリンピックのPRをしていただけるという機会だったり、あるいは飯沼委員のほうから、国際文化祭のときにできるだけPRを、今あるものにプラスアルファで、ちょっとでも協力できるような、つまりコラボでつながるといとか、そういうところをできる限り生かしてというご提案があったんですけど、岡本委員はほかにこんな機会があるんだよということがあれば、ご発言いただけるとありがたいんですが。

○岡本委員

今のところあれですけど、松道というのは、剣道、柔道、合気道あたりの選手、指導者もいますので、会員にこういうことをオリ・パラについて進めているんだよと話すちょうどいい機会かなと思いました。

○事務局

団体の人に協力してもらえばできますし、例えば空き店舗とかそういうところでも、食堂という形で例えば宇宙カボチャを食べてもらうとかいうこともできるかなと。

○岡本委員

特に体育協会の場合は、松戸でいっぱいスポーツがあるわけで、我々は知らない部分が多いから、ぜひそうなったときは、現実、こうやっているよというのをみんなにPRしていただければ、子どもたちは興味を持つかもしれないですね。

○長江会長

そうですね。それにセノーさんの先ほどの座ったままでバレーボールをやるとかそういうものが、ただ障害のある方だけが体験するんじゃなくて、健常者も体験して、パラリンピックを見るときに、自分もやった体験があるんだよというようなことで、レガシーが残っていくという。障害者スポーツに理解を示す市民をふやすというようなことで、先ほど言ってくださってありがとうございましたから、それを何かうまく、学校とか大学とか体育館を持っているようなところが協力

して体験してもらおうというような、そういう部分にうまく生かせるような。

○事務局

この前、矢切の特別支援学級の林田校長先生が、あそこは大きい体育館がありますし、パラリンピックの選手だとか、ボッチャの関係の競技だとか、協力していただけるという話がありますので。

○長江会長

特に林田校長先生は、ご自分がかかわったお子さんがリオのボッチャでメダルをとられました。特別支援学校の場合は、小学生から高校生までが同じ建物なんですね。言ってみると、異世代交流というか、そういうような形の中で障害者スポーツをやっていて、矢切の地域の方々が特別支援学校でボッチャを体験したりして交流しているんですよね。そういうようなことは一般の市民は知らないですから、実は身近なところにオリンピックとパラリンピックの種があるんだよということを、それこそ流通経済大も、橋口先生の日大松戸歯学部も、オリンピックと関連で動いていらっしゃるというのは市民は知りませんので、何とかそこら辺を見える化する広報、とんでもない大きなイベントにお金をかけるということじゃなくて、ちょっとずつできる限り触れていただけたところをふやすというような政策に生かしていただけたらありがたいんですけど、橋口委員のほうからございますか。

○橋口委員

岡本委員のほうから、心理の件について要望をいただいたというのは、実は、先ほど出たスポーツのメンタルトレーニング指導士を持っていまして、自身が実は今、普及する立場におりますので、松戸からそういう声が出たというのは非常にうれしく伺っていました。

現場の指導者の方は、我々もよく講習をしたりするんですが、今までの選手の雰囲気が変わりますので、昔は水を飲むなと言ったって何にしたって、別についてこいと言ったらついてきたような選手が多かったんですが、今はそんなことではなくて、選手はすごい情報を持っているんですね。今、ネットで引けば、全て入ってくる。なので、こういうことは各ナショナルチームがこういう指導をしているとか、社会人の選手はこういうふうなサポート体制だということを選手の方がよく知っている状況があるんですけども、そういったことでお手伝いすることがあれば、どんどん私のほうでもやりたいということと、あと、パラリンピックの選手の場合も同じで、コーチ、監督の方が健常の方がまだまだ多くいらっしゃいますので、国際競技場面での経験がものすごく少ないんですね。選手はいろいろ自身で飛び回って、車椅子の選手でもどんどん自分で移動してやっているんですけど、そうすると、国際会議の場で語学の問題ですとか、さまざま体制面でまいてしまうのは、実は、コーチの心理サポートとい

うのがものすごく大事になっているような気がしますので、そういったところでもし一緒にやればなというところも思いました。

あと、これは質問ですが、選手の表彰云々とか強化の云々で、今回パラリンピックの22競技を対象にするのか、ただ、障害者スポーツの普及、環境整備という、多くの競技スポーツがある。そうすると、表彰をどうするのか。松戸市のほうで例えば車椅子バスケットができない選手なんかでツインバスケットというような競技があります。それは障害者スポーツ大会でやっているんですが、例えばツインバスケットの選手がウィルチェアラグビー、今回、羽賀選手が目指しております。ウィルチェアラグビーの選手はツインバスケットもやる選手も多いんですね。そうすると、どうやって表彰していくか。表彰規定も全国障害者スポーツ大会を参考にでもするのであると、まだこれは出てくるのかなと。

パラリンピックという実はずごく少ないんです。知的がやっと入ってきたぐらいですから。ですので、そここのところを評価してあげるところを見ると、僕も今、パラリンピック委員会の仕事をしているんですが、パラリンピック委員会と障害者スポーツ協会というのは、実はあまりコラボしてないんですね。JOCと体協との関係という形になっているのかもしれないんですが、そうなってくると、オープンマインドでみんなが評価されるということをつくるのであれば、仕組みづくりの中でそういったところも気にすると、選手は喜ぶのかなというのがありました。

あと、先ほど会長のほうからもあったんですが、アナウンスの方法、実は僕もここに来ると、羽賀選手が松戸市民栄誉賞をもらったんだとかということで、市のホームページを見たりしないのが悪いのかもしれないんですが、ここに来ると、ああ、こういう講演があるんだとかなんとかという。そうすると、学生とかはもっとわからないような、恐らくさまざま発信をされているのだと思うんですが、我々も学生への調整というか、そういうのもしやすいかなと。意外とポスターとかというのは、あまり学生たちは見ないで、ツイッターとかインスタグラムというところで、その辺があってもいいのかなというところと、もし可能であれば、我々委員のところにはメールでいただければなと。こういう栄誉賞の表彰がありますよとかということでいただければ、もし参加可能な場合ですとか。実は、文化プログラム、僕自身が受けたいぐらいなので、僕も勉強しなきゃいけないと思うところがあるので、市民の方と一緒に参加できて一般参加という形でできればなと、ちょっと情報をいただければなというのがあります。

○長江会長

ありがとうございます。

すごく重要なことなので、できる限り委員に情報共有、それから、フェイス

ブック等でどんどん情報を流してもらいたいです。学生は本当にこれしか見ていないので、できる限りお願いしたいというふうに思います。

それと、私のほうからは、さっきいろんなものを体験型、あるいは滞在型でしていくというのは、時代の流れからいうとそのとおりなので、文化プログラムやスポーツもそうだと思います。さっき尾崎委員が言われたように、やっていただく、一緒に動いてもらうという機会ってすごく重要だと思うので、さっきの松道のところでも、必ず何か勉強するときには食べさせる体験型なんですよ。食がついていく形の体験型というのをぜひやっていただくと、薄葉委員が言われたように、戸定邸で見学しました、お勉強しました、鳥良でお弁当を食べますみたいな。あるいはまち場にいるところの喫茶店でみんなでコーヒーを飲みますとか、あるいは相模屋さんでおまんじゅうを食べますとか、角屋さんのところでお煎餅を焼いているのを外国人が見ながら、そこで1枚食べますみたいな、できる得る限り体験して食べてもらう。だから、それを説明する人間も食べなきゃいけないという、そういう形の松戸活躍塾にもしないと、ただお勉強だけとかは残らないんですよ。なので、さっきの梨もそうなんですけど、梨園で梨もぎをやります、食べていただくみたいな。イチゴやキウイ、リンゴもつくっているとか、何しろ松戸もつくっているところはたくさんあるので、そこら辺をうまく生かしながら、子どもたちもお年寄りも喜ぶような企画を考えたり、そば打ちをやっているところと絡めるとか、このまちでしかできないというような形で、胃袋も楽しいというふうにコラボでしていただく中で、杉浦委員のほうからは商品開発ができますよということで、食べていただくようなお菓子ができれば、今度、改修される駅の中で 松戸ショップ で売っているみたいな、一度にそこで買えるみたいな、お土産を買って帰るみたいな、そういうところに全部動線がつながっていく形は市の活性化につながっていくと思うので、東京ラスクも松戸発なんですけど、羽田空港にも出店しているし、東京オリンピックで東京ラスクだけがもうかるんじゃないかというぐらいすごいですけど、そういう一つ一つができる限りうまく結びついて、民間なんだけど松戸にお金が落ちるように。

今度、松戸にホテルができるんですよ。

○事務局

松戸駅東口に東横インができます。

○飯沼委員

いつかできるんじゃないくて、今もうできていなきゃいけないので、この前、オーストラリアの人が見に来たときも、松戸はきれいだなと思って帰ったか、汚いまちだなと思って帰ったか、それは心配だったんですけども、たまたま彼らはすごい頑張っていて、何とか来ていただきたいということで、船着場、も

のすごいごみであったところを前日、雨の中、掃除したところを見に行っただけですけど、あそこがあんなにごみだったら、もうとてもこの市には来たくないぐらいに思ったと思うんです。オーストラリアは姉妹都市だから私も呼ばれたんですけど、あのごみの状態をあんなまま放置されている状態やカヌーの場所にもトイレもない状態では来ないです。ホテルもない、まともなホテルが。みんなそれを選びますから、そういう意味では、これだけの人口とすばらしい市なのに社会施設が不備かなということもあるので、これもすぐ直してほしいです。先ほどほかの先生からも出ましたが、東口、どこに行ったらいいの、何なの、これとわからない。前から随分その話は出て、表示をもっとはつきりするとか、もっときれいにしようとか、わかりやすくしようとか、これはかなり煮詰まっていると思いますので、一日でも早く実行してほしいなというふうに思いますけどね。

ですから、実力というのは、宮崎に行ってしまう。宮崎って、海に面したきれいな、私も友達がいるんですけども、初めて行ったときの第一印象でものすごく変わると思います。

だから、小金のプログラムもすばらしいし、こういう形で各地域で松戸とか新松戸とか、私、東松戸の隣ですけども、いろいろな場所で、みんな地元として興味を持ってオリンピックで迎えるのにこういうPRをしようという盛り上がりをどうしたらつくれるか。これだけアイデアがあったら、できれば早目にこういうのを広報に出して意識を高めるとかやっていくことが必要かなと。もう待ってられない時間なので、毎日が楽しくて仕方ないような市にしていかなきゃいけないのかなというのを感じました。

すごく努力していただいているので、これを見て私もびっくりしたんですけども、すばらしいアイデアだと思います。ですから、これをいかに浸透して盛り上げるためにすぐ実行しなきゃいけないんじゃないかなと感じました。ありがとうございます。

○長江会長

ありがとうございます。

まず、実行ということなので、第2次に関しては盛りだくさんぐらい、いろいろ書いていただいていますけど、まず、実行していくことは見える化する。それから、オリンピック・パラリンピックに関する機運を高めていく。さっきの話じゃないんですけど、船着場だったら、もしかしたらカヌーが来るということを考えたら、誘致するためにはみんなできれいにお掃除しましょうみたいな、そういう地域力を高めていただければ、北松戸の競輪場側もきれいになると思いますし、逆に松飛台とか東松戸も、佐渡ヶ嶽部屋でまちおこしみたいな形も。あと、琴欧州さんも鳴門部屋をもう一度、松戸に復活するようですから、

松戸にお相撲部屋が2つになりますので、そういうことも含めてプラスにしていくという形で、皆さんからいただいたご意見の中に盛り込んで、文面に関しては、また皆様方にお集まりいただくのもなかなか大変なので、会長と副会長のほうで見させていただきながら、第2次計画のほうに盛り込ませていただくということでよろしいでしょうか。

皆さん方のご意見、足りない点がありましたら、きょうの会議を1つのきっかけにさせていただいて、市の窓口のほうにメール等でも結構ですから、言い忘れたということがありましたら、出していただきますよう、よろしくお願いいたします。

○事務局

それと、委員の方々は2年間の任期を終えられて、任期更新という形になりますので、ぜひ引き続きよろしくお願いいたしますと思っております。

○長江会長

それでは、皆様方、本当にお疲れさまでした。次回の委員会につきましては、また日程調整等、皆様方にお伺いしながらしていきたいというふうに思います。平成28年度の推進会議を閉じさせていただきます。ご協力ありがとうございました。